

専務・創設者
アン・シゲオ

主な活動内容

- 海洋孵化場の設置計画
- 子供を対象とした農業及び森林教育のための地区開発・整備
- 子供を対象としたエビール・サマーキャンプの開催
- 環境データの収集
- 環境研究



設立背景

2005年、バベルダオブ島北端のガラロン州を拠点に、エビールと呼ばれるサンゴ礁地域の持続可能な漁業のための海洋保護区を設定。

活動目的

エビール地域の環境保全及びパラオ全土の人を対象とした環境教育の実施。

“我が土地、我が水、我が家よ。私はあなたを慈しみます、あなたがそうであったように”
—キャンプ・エビールのテーマ

メンバーからの声 アン・シゲオさん



環境保護や環境教育、先住民の知識の重要性などが世界的に注目される中、地元では豊かな自然が当たり前目の前に広がっているがゆえ、その重要性に気づいている人は少数でした。団体設立時、そのような人々に、サンゴの保護を訴えることは大きな課題で、ポスターで啓発するだけでなく、より深く人々の心に訴えかけられるよう、体験型のイベントを開催しました。それが、2005年に子供たち30人を対象とした行われた第一回のエビールサマーキャンプです。子供たちが自然の大切さを身をもって体験し、大人たちへ共有することで、このキャンプの意義が地域の人々に広く周知されることとなりました。

2016年、草の根無償資金協力という大きな援助を受け、翌年、エビール・ソサイエティ環境教育研修施設が完成しました。

これにより、環境教育促進と、市民の環境保全に対する意識向上を実現し、私達の活動は国際的にも高い評価を得ています。近い将来、パラオの政府とも連携し、私達が収集した環境データを政府と共有すると同時に、政府側からの援助も期待しています。

私達は環境保護のための国際的な研修制度の確立を目指しています。そして、子供たちがパラオの森林と農業について学ぶための農業デモンストレーション地区の設置も今後の課題です。

この組織が発展し社会に貢献できるのは、ひとえに恵まれたパートナーシップと国内外からの支援や協力のおかげです。多くの指導者、科学者、伝統文化の有識者との繋がりは、私達に様々な変化や進化をもたらしてくれます。現在、スタンフォード大学とともにやっている、子供を対象にしたリサーチ教室では、自然環境下での活動を通し、パラオの倫理や社会科学の学びに加え、子供達が自立し、思いやりを持って、様々な分野の人とコミュニケーションを図れる場となるよう努めています。このリサーチ教室はパラオの全小学4、5年生のカリキュラムに組み込まれています。

このような子供達との活動は私達を若返らせてくれます。ガラスマオの滝でサマーキャンプした際、生徒たちは、巨大なピンロウの実のような葉を見つけ大変喜びました。ある生徒はどうしてもそれを家に持ち帰ると主張し、バスに持ち込みました。子供たちの底しれぬ自然への関心や興味は、私達の大きなやりがいとなりっています。

豊かな海や森は文化の礎となり、偉大な教え手として存在しています。人々が自然環境から学び成長する機会を設け、この地域に貢献できることを私達は望んでいます。

Contact Information

✉ info@ebiilsociety.org

☎ (680)-855-2767

📍 P.O.Box 813 Koror, Palau 96940

🌐 www.ebiilsociety.org

📷 [ebiil.society](https://www.instagram.com/ebiil.society)